

未来を拓く洛西ニュータウン

I. 産官学連携による地域活性化： 「洛西テクノタウン」の提言

目次

1. 洛西ニュータウンの潜在力と未来
2. 産官学連携による地域活性化
3. 「洛西テクノタウン」実現に向けて

NPO法人 洛西福祉ネットワーク

顧問 中安 顕

京都大学医学部芝蘭会理事

先端医学領域知的財産ディレクター



洛西ニュータウンの潜在力と未来

洛西ニュータウンは1969年京都市により計画・開発された京都初のニュータウンである。約半世紀を経て住民の高齢化・流出、建物の老朽化が進み、衰退の道を辿るか不安も感じられる。しかし洛西ニュータウンは類いまれな潜在力を擁する環境に恵まれているのである。

住民・市政による景観保持の努力が続けられており、名峰西山に抱かれたこの街は日本一の竹の名産地であり、美しい竹林が点在し、西山山麓には多くの名刹がある。世界から観光客が訪れる嵐山の南入り口にあたり、洛西名勝の要である。

京都大学工学部工学研究科の本拠地としての桂坂キャンパスは、地域及び環境との共生を基本コンセプトとして設計されており、キャンパス一帯が科学と技術の融合の場“テクノサイエンスヒル”として発展することが期待されている。

世界に最先端技術を発信する京大桂坂キャンパスは、国道9号線を境界にして洛西ニュータウンの東入り口に位置しており、“研究活動を通じた社会との連携・協力（知識資源の共有化）”を实践する京都大学の先導により地域活性化に繋がるのが切望される。

地域が発展するためには交通の利便性が欠かせない。長年の懸案であった京都縦貫道沓掛ICに引き続き大原野ICが完成した。名神ハイウェイを経て関西圏への最短ルートとなり、京都北部への移動が容易になる。これにより洛西ニュータウンは京都西部の産業の要になることができる。豊かな景観、歴史的観光資源、大学、高速道路の充実という恵まれた環境にある洛西ニュータウンに、「学・官・民・産・公・金」、即ち京大桂坂キャンパス（学）、市政・国政（官）、住民〈民〉、企業（産）、地域ネットワーク（公）そして金融機関（金）の強力な連携による地域活性化・新産業創造を主眼とした“洛西テクノタウン”創生への方策は喫緊の課題である。



2

産官学連携による地域活性化

それではどのようにして洛西の地に新産業を創生するのか？

キーワードは知の拠点である大学の支援によるベンチャー企業の育成を眼目とする地域発イノベーション創出である。大学研究者・学生による大学発ベンチャーを含む、夢を抱いた発想力のある若者が自在に交流・研究し、製品を開発できる環境のインフラ整備が必要である。秀麗な西山山麓に国内は勿論世界から集まった人材によるベンチャービレッジが拡がり、古いものを壊して新しいものを創造する独自の文化・気風を築いてほしい。

ベンチャーキャピタル・大企業の資本参加によって夢の実現は可能になるであろう。政府系ファンドの地域経済活性化支援機構、総務省の自治体向け企業誘致支援策の充実も必要である。

すでに産官学連携による地域再生の試み（実証実験）が各地で行われており（東京都多摩タウン、千葉県柏市スマートシティ、九州大学伊都キャンパス拠点集積等）、とりわけ行政の熱意がその進捗を左右するように見える。

3

“洛西テクノタウン”実現に向けて

提言1. 京都市立芸術大学跡地（芸大跡地）の利用

大学を中心とする産官学連携を集積推進するためには、拠点となるハブ（センタービル）が必要である。芸大跡地は大原野・杳掛ICに近く9号線に面しており、洛西ニュータウンの発展を象徴する事業に供されなければならない。

大学を中心とする産学連携集積拠点の形成を行うためには、共同研究施設、インキュベーション、オープンファシリティ等の産学連携の空間が必要である。洛西ニュータウンの地域再生には、“スマートコミュニティー”（環境配慮型地域：古い住宅に住む人たちの家庭のエネルギーを「見える化」して節約を促す取り組み）のプロジェクト（実証事業）も行うべきである。米オレゴン州ポートランドにおける職住遊一体を住民参加で合意形成する開発環境先進都市の取り組みは見るべきものがある。センタービルは住民が参加しやすいようにオープンな空間で、環境重視のデザインが必要である。

提言2. 国家戦略特区による再開発の促進

アベノミクスの成長戦略として期待される国家戦略特区は、地域限定での大胆な規制緩和により新しい産業や雇用を推し進めるため、国主導で特区の方針を決めるものである。具体的な事業を盛り込んだ区域計画を作成し、必要な規制緩和も討議し国に要請する（国家戦略特別区域会議）。特区制度の司令塔と

しての国家戦略特別区域諮問会議で当該区域計画を審議して最終的に首相が認定する。

特区に指定されると、区域限定の規制緩和により外国企業の進出促進など、世界からの人材と資金の集積が容易になり、企業の設立簡易化、教育・保育・雇用における規制緩和が行われる。農地売買の手続きが早くなり用地取得が容易になる。

特区事業として大原野IC・杳掛ICを拠点とする京都縦貫道沿線の開発により、企業本社・研究所・工場の誘致を促進し京都西部の発展に繋がるであろう。

国家戦略特区の「集中取り込み期間」終了は1年後である。

提言3. 地域活性化の触媒となる人材の育成と集積

洛西ニュータウンの未来を背負うのは、10代の若者である。域内の中・高校性が我が故郷に愛着を持ち、地域の発展に貢献して頂ければ洛西ニュータウンの未来は約束されるであろう。中・高校における科学教育の重要性が叫ばれているが、大学が地域の教育に参加することは科学教育の充実に繋がる。京大工学部研究科が一定の基準で選ばれた学校に教員を派遣し、大学での研究成果を分かりやすく解説する。或は選抜された生徒が工学研究科において研究の実習をする等は、生徒の研究・起業マインドと将来のインセンティブを高める。起業精神、好奇心と想像力に富む世界を変える若者（第二のスティーブ ジョブス！）が育ってほしい。

大学においても学生の起業マインドが高まっている。IT技術を中心としたアイデアを発明・製品化に結び付けるような実践の場を提供するインフラを充実すれば、志の高い人材を集めることができる。

地域イノベーションを担う産学連携を支援する人材の発掘、育成、交流が重要であり、実績のあるつなぎ役（コーディネーター）を配置する人材支援ネットワークの構築を行うべきである。生み出される技術を実用化するイノベーション創出のためには、スーパーテクノイノベーション特区等の検討を行い、制度的課題を解決しなければならない。

地域・産業との垣根を取り払った大学を中心とした、新しい文化の創造を目指した地域の再生が行われることを願う。

わくわく通信 特別号

2014年12月 NPO法人洛西福祉ネットワーク発行

〒610-1145

京都市西京区大原野西竹の里町1丁目19番地4

竹の里センター内

電話・ファックス:075-333-3392

メール:rakusai.net@gmail.com

ホームページ:<http://rakusai-fukusinet.life.cocacn.jp/index.html>

◆ご意見・ご感想などございましたら、NPO法人洛西福祉ネットワークまでお寄せください。